

---

# ニライカナイ

明銀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ニライカナイ

### 【Nコード】

N3067H

### 【作者名】

明銀

### 【あらすじ】

砂浜に打ち上げられた1頭のクジラと、すべてを失った女性。激しい嵐にみまわれた南の島の話。詩のような物語。

『ニライカナイ』

作：明銀

掲載：『いつかみたあの空のような』

雨の降る森で、大樹の胎に抱かれながら眠る夢をみた。

その晩のひどい嵐は、海から沢山の命を打ち上げてそれと引き換えに、陸からも沢山の命を奪っていった。

豪雨に山は崩れ、土砂が透き通った青い海をにがらせる。きつとあのさんご礁も、そこに住んでいた魚たちも消えてしまうのだろう。なぎ倒された木々。きつとあの森に住んでいた生き物たちも、豊かだった山森と共に、消えてしまうのだろう。

深い海の奥底へ奪い去られていった我が子達。土石流に飲み込まれ、村と共に姿を消した私の夫。大波と強い風に誘われて、遠いあの青い海の彼方の場所に消えていった。

ニライカナイ。神の島。引き潮に導かれ、魂の行き着く場所。

家々の残骸。座礁した船。打ち上げられた魚たち。流れ着いた人々の身体。カニが死肉をあさる。

延々と続く白い砂浜に、一頭のくじらが横たわっていた。まだ、息をしている。苦しげに、鼻孔から空気を吐き出し、そして吸う。黒い瞳が、嵐のあとの深く澄み渡った空を見つめていた。

太陽が高く上る頃、このくじらは死ぬだろう。海鳥やカニたちのえさとなり、いつかは骨となって海に帰るだろう。

そしてわたしは……

横たわるクジラの傍らで、崩れるように腰を下ろす。泡沫の花が、咲いては散った。傷口から流れる血が波にとけてゆらゆらと朱色の筋をえがく。身体の奥底にまで射し込むかのような強い日差しが、閉じたまぶたの裏を赤く焼いた。

どれだけ時間がたったのだろう。

白い日射しと寄せて返す波は、時の感覚をも流しさる。喉が焼けるようだ。塩水と照りつける太陽にさらされた肌がひりひりと痛む。満ち始めた潮に洗われるままにしていた素足に、何か大きな塊が触れている。波と共にゆれながら、素足をやさしく叩く。

ゆつくりとまぶたを開けた。なんて眩しいんだろう。砕ける波に踊る光が、身体を包んでいる。

波に遊ばれて椰子の実が一つ、私に身を寄せながら揺れていた。両手を差し出して、波間から持ち上げた。

重たくて硬い椰子の実は、海水に弄ばれながらもその命を保っていた。大地の色をした硬い殻を破って萌え出た若緑の新芽。青と白の冷たさに凍えた瞳の痛みが、土と萌え出た緑にとけていく。

愛おしかった。生まれたばかりの命が。その生きようとする意志が、たまらなく暖かかった。

波の音が変わった気がした。立てるんだ、まだ歩けるんだと励ますように聞こえる。痛む足を引きずって、歩こう。生きのびようとする命の力を、両腕に大切に抱えて。飲み込まれそうになる大きな悲しみは、引く波にまかせて。

白い砂に、最初の足跡を刻む。そしてもう一步。風と波は足跡を消し去るけれど、わたしの足は、証を刻む。

横たわるクジラは、波に洗われながら昼の日射しを生き延びた。射殺すような日射しにさらされながら、生きるために呼吸を繰り返した。その聡い瞳は、もう生きられないと知りながら、それでも閉じられることはなかった。

その晩くじらは紺色の闇の空に浮かぶやわらかい満月を見上げて、一つため息のように大きく息を吐くと、それから、もう二度と息を吸いこむことはしなかった。

そしてわたしは、夢をみる。

崩れた山、なぎ倒された木々から新たな命が芽吹いていく。芽衣に包まれた森は幾年もの時を重ねて、静かに根を広げいつしか森は、かつての姿を取り戻していく。

恵みをもたらす雨を、その根が支える大地でしっかりと受け止めて数多くの大風、嵐を耐え抜いて。生きた年月の証を、身体に刻んで。豊かな葉を茂らせた大樹へと育っていく。

そして、わたしは大樹の胎に抱かれて、樹皮を流れる命の音に耳をすませる。静かに呼吸を繰り返して、胎児のように身体をまるめて。

穏やかなまどろみの中で、わたしの奥に潜む産まれ来る命が、胎の壁を柔らかく押ししているのを感じて、わたしは微笑んだ。

明日は、椰子の木を見に行こう。立派な若木に成長したあの椰子の実を。

おつま。

(後書き)

突発的南の島症候群。海、波、青、白、月、紺、くじら、砂浜。森、雨、音、太陽、珊瑚、椰子の木、大樹。大好きです。

ところで、ニライカナイって黄泉の国って意味でよろしいのでしょうか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3067h/>

---

ニライカナイ

2010年10月12日02時07分発行